

平成16年度財団法人東洋文庫事業報告書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成17年3月31日現在までに行われた財団法人東洋文庫事業報告の概要は下記の通りです。

事業内容

事業項目

- I 調査研究
- II 資料収集・整理
- III 研究資料出版
- IV 普及活動
- V 学術情報提供

I. 調査研究

資料収集と研究事業は、以下のように超域アジア研究とアジア諸地域研究に区分し、各研究はプロジェクト研究あるいは基礎研究として実施される。研究体制を一新するに際し、新規研究員、特に若手研究員の追加委嘱等をはかり、研究活動の活性化と充実をめざした。平成16年度以降は、これらの研究を基礎に、日本のアジア研究の国際化をさらに促進すべく、その成果を出版（欧文等を含む）し、国内外に配布・紹介する。また、本事業によって達成された研究成果については、講演会・研究会などを通じて、あるいは電子メディア等を用いて広く一般に公開する。

A. 超域アジア研究

○超域アジア・プロジェクト研究

(1) 「現代中国の総合的研究」(超域アジア研究部門、現代中国研究班)

1949年の革命以後、国内で政治、経済、社会の激変を経験し、東アジアから世界にまで政治・経済的な影響力をもちつつある隣邦中国の全容を、歴史・文化の流れを含めて総合的に捉える研究体制（政治、経済、国際関係・文化、資料）を構築する。その基礎資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点にしながら、学際的研究・公開利用の観点から拡充と再編をはかる。

[研究実施概要]

「現代中国班」は、統一テーマを〈国際社会における現代中国の変容：持続と変革〉と定めた上、①《政治と外交》②《経済》③《国際関係・文化》の3グループを編成した。平成16年度には、定例の研究会を主軸にしながら研究発表、国内・海外の調査、資料の収集を継続実施中である。業績の出版では、前年度に衛藤瀋吉著*Political History of Modern China* [東洋文庫欧文論叢(TBRL)No.4] (286ページ)の刊行につづき、本年度は衛藤瀋吉著*Modern Japan-China Relations* [TBRL No.5] を出版した。さらに前年度の『中国学術雑誌全文データベース』歴史編・政治編のアクセス権の確保に加え、経済編のアクセス権を確保した。

①「政治」(主査・毛里和子)

中国の政治・外交について、「中国の政治変容－民主化の比較研究」(幹事：毛里和子)と、「中国外交史研究会」(幹事：青山瑠妙)の二つを実施した。

[研究実施概要]

- a) 「中国の政治変容－民主化の比較研究」部会は、4回の研究会を開催し、比較政治の理論的な側面にウェットをおいて他の幾つかの東アジアの国と比較しながら中国の政治体制の分析を行った。

広瀬崇子「インド民主主義の発展と課題」(平成16年4月23日、早稲田大学)、谷川真一「中国におけるエリートの変容－教育階層の視点から－」(平成16年7月3日、早稲田大学)、三宅康之「中国の経済発展と地方の産業行政」(平成16年10月2日、早稲田大学)、趙宏偉「中国における中央地方関係と党・政・人代関係の変容－政治文明と政治民主の視点から－」(平成17年1月31日、早稲田大学)

- b) 「中国外交史研究会」においては、現代中国の外交、および近100年の中国外交史に関して、外交文書をふまえて学術的に研究を深めた。また、中国の国際関係・中国外交史専門家を招き、4回の研究会と2回の国際セミナーを開催した。

青山瑠妙「現代中国外交研究における若干の概念整理」(平成16年5月14日、早稲田大学)、益尾知佐子「1970年代の中国外交―『独立自主の対外政策』に向けて―」(平成16年7月2日、早稲田大学)、平野聡「『辺疆の喪失』か、『辺疆を追い込んだ』のか?」(平成16年9月27日、早稲田大学)、沈志華「中ソ対立史における個人の要因―毛沢東、N・フルシチョフを事例として―」(平成16年12月9日、早稲田大学)
Reinhard Drifte「日本外交における中国」(平成16年10月22日、早稲田大学)、毛里和子・青山瑠妙・川島真・張歴歴・石之瑜「中国外交史研究への視座」(平成17年2月3-4日、北海道大学)

②「経済」(主査・中兼和津次)

中国経済研究班では、数年前に実施された科学研究費特定領域研究(代表者:毛里和子)の中の経済班(代表者:中兼和津次)のメンバーを中核にして、現代中国経済の歴史的背景をさまざまな視角と側面から明らかにするために昨年度から研究活動を開始した。

[研究実施概要]

- a) 平成18年度に出版予定の和文論文集「歴史的視野から見た現代中国経済」と題する研究成果を修正・補充して英文出版をおこなうために、研究テーマの検討をかねて、恒常的な研究会を重ねた。

巖善平「大都市における労働市場の構造変化―アンケート調査の分析を中心に―」(平成16年4月10日、霞山会館)、丸川知雄「流通ネットワークと人的ネットワーク」(平成16年7月10日、東京大学)、(1)徐涛「中国的株式会社制度の導入の歴史―社会主義理念の変容―」(2)唐成「中国における地方政府の規模と経済成長の格差―パネルデータによる実証分析―」(平成16年9月18日、東洋文庫)、楽君傑「中国の沿海農村地域における男女別就業構造と就業選択の分析―浙江省岱山県の場合―」(平成16年10月23日、東京大学)、(1)中兼和津次「『歴史的に見た地域格差』論に向けて」(2)加藤弘之「郷鎮企業の過去、現在、未来―文献サーベイを中心に―」(3)川井伸一「中国の会社概念の歴史的変遷」(4)佐藤宏「The Impact of Village-specific Factors on Household income in Rural China」(平成17年3月15-16日、青山学院大学国際政経学部コモンルーム)

- b) 5ヶ年計画により、現代中国経済に関する叢書を出版すべく準備を進めている。その間、なるべく多くの若手研究者を研究会に吸収し、次代を担う研究者の養成につとめた。

③「国際関係・文化」(主査・平野健一郎)

現代中国研究班「国際関係・文化」分野グループは、現代中国の国際関係を、特に社会文化面から調査研究することを目的としている。

[研究実施概要]

第2年度にあたる平成16年度には、広くこの分野の研究状況を知るためにグループ外の研究者をも報告者として招き、10回の研究会を開催した。

報告者の氏名と報告タイトルのみを示せば、以下のとおりである。福士由紀「国際連盟保健機関と上海の衛生」(平成16年7月30日、東洋文庫)、高田幸男「重慶国民政府の教科書政策」(平成16年10月23日、早稲田大学国際会議場)、(1)土田哲夫「抗戦期の国民党中央」(2)菊池敏夫「戦時期上海の百貨店業と商業文化」(平成16年11月6日、早稲田大学国際会議場)、(1)川島真「満州国とラジオ」(2)貴志俊彦「戦前期東アジア絵はがきデータベース」(平成16年11月27日、早稲田大学)、(1)三澤真美恵「抗日戦争期の中国の映画統制」(2)内田知行「抗日戦争期の中国の交通文化」(平成16年12月11日、早稲田大学国際会議場)、(1)天野祐子「日中戦争期、国民政府の基層社会統治」(2)瀧下彩子「日中戦争期の中国における日本研究と日本イメージ」(平成16年2月19日、早稲田大学国際会議場)

なお、これらの研究会は、1回を除き「(日中戦争期の)日中関係史研究会」(早稲田大学)と同時開催で行い、現代中国研究班のメンバーはもちろん、関係の研究者に広く通知して、公開で開催した。

《研究成果総括》

報告冒頭の「研究目的」で述べた趣旨に沿って、《現代中国研究班》は研究体制を a. 資料班（主査：田仲一成）、b. 政治班（主査：毛里和子）、c. 経済班（主査：中兼和津次）、d. 国際関係・文化班（主査：平野健一郎）の4チームに組織した。うち、a. 資料班を加えたのは、平成15年度に推進した研究の反省を生かしたもので、そのねらいは二つある。《現代中国研究班》が依拠する資料の相当部分は、東洋文庫がすでに所蔵する〈モリソン文庫〉とこれを増補した極東・中国関係欧文資料約54,000冊、および1954年以降〈近代中国研究委員会〉が収集してきた近代中国関係中文・日文・洋書資料約80,000冊をその基礎におくことができる。しかし1949年以降の資料については、これを組織的に増補する必要があり、中国・台湾の図書館・研究機関との密な連携を構築しなければならない。同時に、近現代の中国資料の収集・利用・交換については、デジタル化システムを整備し、また先方の図書館、研究機関におけるそれとの切り口を整合させることが求められる。昨年度と本年度にわたり、《現代中国研究班》はこうした努力を推進し、台湾・中国の主要機関との連携、情報互換の体制を作り上げた。矢吹晋、田仲一成による山東省煙台、北京中国社会科学院図書館、同文献信息中心、中国人民大学書刊資料中心、中国図書館、龍源期刊網、清華大学 CNKI、中国国家図書館の調査を実施した。また、昨年度（財）日本国際問題研究所旧蔵の新聞資料1,627製本冊の受け入れにつづき、本年度は（財）日中友好会館附設の日中歴史研究センター旧蔵書のうち、統計・年鑑・地方誌計13,446冊の受け入れ方を同会館と協議し、平成17年度に実現する方向にある。このほか、年度内に資料『駐日代表団神阪僑務分処档案』を受け入れた。

b. 政治班、c. 経済班、d. 国際関係・文化班の平成16年度内における研究は、各班とも数次の研究会を開催し、必要に応じて外国より研究者を招聘し、メンバーのみならず関係ある研究者の参加を求め、集約的な報告・質疑応答を行った。b. 政治班は国際ワークショップ2回、報告者6名、研究会8回、報告者8名。c. 経済班は研究会6回、報告者9名、d. 国際関係・文化班は研究会10回、報告者10名である。報告および討論の詳細は前出の通りである。

本年度の《現代中国研究班》における成果の出版としては、Eto Shinkichi 衛藤藩吉、*Modern Japan-China Relations* (TBRL No.5) がある。 (研究班代表 斯波義信)

(2) 「現代イスラームの超域的研究—議会主義の展開と立憲体制に関する比較研究—」

(超域アジア研究部門、現代イスラーム研究班)

本プロジェクトでは、これまでほとんど用いられることのなかった中東諸国の議会文書（アラブ、ペルシア、トルコ）を分析し、それぞれの地域（国家）に誕生した議会主義と立憲体制の実態を比較・検討することを通じて、中東・イスラーム地域における諸国民国家の歴史的役割と今日的意義を総合的に考察する。

[研究実施概要]

「現代イスラーム班」では、まず、平成17年度にイランの議会文書の中、*Agenda Index of the Minutes of the Iranian National Assembly*（ペルシア語）の成果を公刊（CD-ROM版の予定）するためとり組んでいるが、アラブ・トルコの両チームと連携して資料の調査・収集・研究を継続実施中である。

[合同研究会]

平成17年3月23－24日に東洋文庫において合同研究会を開催した。報告内容は下記のとおりである。

1) アラブ

池田美佐子「エジプト議会の機能と運営—ミクロな分析から—」

長沢栄治「エジプト議事録に見る法案の審議過程について」

2) イラン

佐野東生「タギーザーデの国会活動について」

森島聡「イラン国民議会議事録の構成と特徴について―第5議会議事録から―」

3) トルコ

粕谷元「歴史史料としてのトルコ大国民議会議事録

―カリフ制の廃止（1924年）とタリーカの閉鎖（1925年）の検討から―」

間寧「1980年代トルコ国会における法案修正過程の分析」

①「アラブ」（主査・長沢栄治）

本年度のアラブ班は、アラブ諸国の議会主義・議会制度史に関する共同研究を進める一方、エジプト議会資料の分析と利用法の調査研究を行ない、合わせて比較の観点からシリア、レバノンの議会資料についての現地調査と資料収集を実施した。

[研究実施概要]

a) 研究会の開催

第1回研究会を平成16年度7月30日に開催し（会場：東京大学東洋文化研究所）、Dr. Azzam Tamimi を講師に迎えて、議会制民主主義と深い関連を持つテーマであるアラブ・イスラーム世界における世俗主義思想の問題を議論した。また、第2回研究会は、9月25日に開催し（会場：東京大学東洋文化研究所）、シリアおよびレバノンの議会政治と議会資料に関する報告を受けて活発な意見交換を行なった。講師と報告のタイトルは、(1)小副川琢「内戦終結後のレバノン議会選挙とシリアー選挙法変更と立候補者名簿作成の観点から」、(2)大河原知樹「シリア、レバノンの議会政治資料」であり、コメンテーターは末近浩太に依頼した。

b) エジプト議会資料の分析

エジプト議会資料については、東京大学東洋文化研究所所蔵の上院下院議事録の内容を検討し、とくに下院の付録資料の一覧と法案審議過程の分析を行なった。平成17年度には、議事録利用の手引きとなる資料集を作成する。11月6日には池田美佐子と長沢栄治を中心に資料の分析検討会を行なった（会場：東京大学東洋文化研究所）。なお、3月22日の合同研究会では、上記の研究の成果の一部を紹介するために、(1)池田美佐子「エジプト議会の機能と運営―ミクロな分析から」と、(2)長沢栄治「エジプト議事録に見る法案の審議過程について」の報告がなされた。また、昨年度に引き続いてエジプト議事録下院のデジタル化を実施した。

c) 資料収集活動

大河原知樹にシリアおよびレバノンの議事録および官報の収集を依頼した。その調査報告は、第2回の研究会でなされた。また、昨年度に引き続き、エジプト議会史・近現代政治史の基礎資料である「アル・アハラーム」紙のマイクロ・フィルム資料を購入した。

②「イラン」（主査・八尾師誠）

国民国家システムが大きく再編を迫られる現代世界にあって、国民国家そのものの限界が叫ばれ、その克服が盛んに議論の俎上に上る世界の趨勢とは別に、ますます強固な枠組みへと移行しつつあるかに見える中東地域・イスラーム圏における国民国家において、議会主義と立憲体制が有している位置と役割は決して小さくはなく、その政治文化を大きく規定する要因となっている。当班は、イラン・イスラーム共和国およびイラン文化圏を対象として、議会主義の展開と立憲体制を巡る諸問題、そしてそこに醸成される政治文化を、議会議事録等の一次資料の分析・検討を通じて考察することを基本的な研究テーマとする。

[研究実施概要]

a) イラン国民議会議事録の第1～第5議会について、議題目録のデータベース化を継続し、「イラン国民議会議事録データベース」公開のための準備作業を進めた。また、本議事録を一次資料として、近代イランの政治、社会に関する研究を進め、研究会（森島

聡「イラン国民議会第五立法期選挙におけるレザー・ハーンの選挙政策」、斎藤正道、「イラン・イスラーム革命のイデオロギーの複合的性格に関する若干の考察—近年の研究史をもとに—」、山崎和美「イラン人女性による女子校設立—20世紀初頭テヘランの事例を中心に—」平成17年3月5日、東京外国語大学)を開催した。

b) 資料収集活動

イラン・イスラーム議会 (Majles-e Showra-ye Eslami) 議事録全58冊分の内、昨年度購入分の欠落部分である、第一議会 (全部)、第二議会 (第1~49会議)、第四議会 (第34会議、第111~115会議、第117~121会議、第123~128会議、第130会議、第134会議) について収集した。また、イスラーム革命以前の法令集である第十五議会法令集、およびイラン・イスラーム共和国「資料機構・国民図書館」から出版されている議会関係文献について、収集活動をおこなった。

③ 「トルコ」(主査・粕谷元)

トルコ班では、主としてトルコに現存するオスマン帝国議会議事録およびトルコ大国民議会議事録の所蔵目録作成にむけて、調査研究を遂行した。今年度は、正規のメンバーに加えて研究協力の立場で若手研究者の参加を得て、研究会の開催、資料収集など活発な調査活動がおこなわれた。

[研究実施概要]

- a) 議事録を含む議会資料を用いたトルコ議会制度および議会主義の研究を遂行し、平成16年10月23日に以下の研究会を開催した (会場：明治大学)。(1)大庭竜太「クルド・ナショナリズムの思想形成—サイド・ヌルスィーの事例—」、(2)千條真理子「ヌルジュ運動形成前史—オスマン帝国末期におけるサイド・ヌルスィー—」
- b) 東洋文庫所蔵のオスマン帝国議会議事録資料のマイクロフィルム撮影・デジタルデータ化事業は今後の研究に大いに寄与する重要な成果であった。

《研究成果総括》

超域アジア研究部門・現代イスラーム研究班は、「現代イスラーム世界における議会主義の展開と立憲体制に関する比較研究」を主要な研究課題としてスタートした。その目的は、19-20世紀にかけてアラブ、イラン、トルコ諸国で新たに展開した議会主義と立憲制について、アラビア語・ペルシア語・トルコ語による議会文書を解読・分析し、3地域相互の比較検討を行うことにある。この主題の解明は、憲法の制定と議会の開設を通じて民主主義的な政治体制を構築しようとする、現代のイスラーム諸国家の動向を理解するうえでもきわめて有効であると思われる。

初年度の平成15年度には、アラビア語・ペルシア語・トルコ語の議会文書をデータベース化するとともに、議事録資料の性格とその利用方法に関する検討が行われた。また、年度末に実施された合同研究会では、同じ議会文書であっても、内容の密度や記録の仕方には、アラブ、イラン、トルコでかなりの違いのあることが指摘された。

以上のような初年度の研究実績をふまえて、2年目にあたる今年度は、各研究グループともに、議会文書の解読と分析を開始し、具体的な作業を通じて議会のあり方や法案の制定過程を明らかにすることを目標に定めた。各グループの研究活動を要約すれば以下の通りである。

<アラブ>

アラブ班は、エジプト議会資料の分析と利用法の調査研究を行い、併せて比較の観点からシリア・レバノンの議会資料についての資料収集と現地調査を実施した。特に年度末の合同研究会では、池田美佐子「エジプト議会の機能と運営-ミクロな分析から」と長沢栄治「エジプト議事録に見る法案の審議過程について」の二つの報告があり、議会文書の解読・分析による研究が着実に進展していることが確かめられた。

<イラン>

イラン班は、イラン・イスラーム議会議事録の欠落部分を収集するとともに、イラン国

民議会議事録の議題索引を作成するためのデータベース化作業を行った。この作業の課程で、研究協力者による議事録の分析も開始され、合同研究会での森島 聡の報告「議事録データベースの入力成果について」が示しているように、イラン国民議会における法案の審議過程も明らかにされつつあり、アラブ班の池田報告とも共通する研究成果が提示された。

<トルコ>

トルコ班は、東洋文庫所蔵のオスマン帝国議会議事録のマイクロフィルム撮影・CD化を行い、今後の作業に資する研究条件を整えた。これと並行してクルド・ナショナリズムの思想形成についても研究が行われた。また、合同研究会では、粕谷 元がカリフ制の廃止とタリーカ（神秘主義教団）閉鎖を事例として、トルコ議会議事録の検討を行ったが、その有用性は必ずしも高いものとはいえないとの指摘がなされた。

<成果と今後の展望>

以上のように、平成16年度には、アラビア語・ペルシア語・トルコ語の議会文書を解読・分析する作業が開始され、比較のための具体的な成果を得ることができたことが特徴である。今年度も、中国近現代史を専門とする佐々木揚（佐賀大学）の出席を得て、中国との比較も視野に入れた研究を実施したが、合同研究会を通じて明らかにされた今後の課題と展望は以下の通りである。

- 1) アラビア語・ペルシア語・トルコ語の議会議事録を時系列的に整理すれば、特に1920年代について、法案内容などを中心に相互の比較を行うことが可能である。
- 2) 研究に議事録をどの程度利用できるかについては、アラブ、イラン、トルコの間温度差があり、今後はどのようなテーマであれば、それぞれの議事録を有効に利用できるかを確認する必要がある。
- 3) それぞれの議事録について、データベース化と索引づくりをさらに推進するとともに、議事録を利用するための分かりやすいマニュアルを作成することが必要である。

（研究班代表 佐藤次高）

B. アジア諸地域研究

(3) 前近代中国プロジェクト研究

① 「前近代中国の法と社会」(統括・鈴木立子 東アジア研究部門、前近代中国研究班)

南宋から明清時代にかけて豊富に残されている判牘文・条例などから、各時代の戸婚・田土・錢穀などの「民事」に関わる法について、その特質・歴史の変遷・地方性などを分析し、前近代中国の社会の本質を考察する。その成果は、論文集『前近代中国の法と社会』として発表する。また研究過程では、明清時代を中心とした判牘文・条例集について調査・収集する。

[研究実施概要]

- a) 前近代中国の「民事」的な法・規範に関する研究成果の作成準備のための研究会を開催し、研究成果の論文集刊行の準備を行った。
- b) 「民事」的な法・規範に関する文献目録の作成を継続した。
- c) 国内外の宋～清代の条例等の調査・収集と条例集の内容索引作成を検討した。

○基礎研究

アジア諸地域の歴史・文化の特徴を解明するために、以下のような基礎研究を実施した。

<東アジア研究部門>

(3) 前近代中国研究班

② 「宋史食貨志研究」(統括・斯波義信)

宋代の経済につき王朝の官僚機構が記した克明な「資料」にもとづいて、経済政策・財政運営の全体像を解明する。「資料」の中心をなすものは『宋史食貨志』であり、その総合

的研究の成果として訳註書を完成し、また、その資料源である『宋会要輯稿』食貨語彙索引編の作成事業の完結を期す。

[研究実施概要]

- a) 本年度は、『宋史食貨志訳注(六)』収載の酒・香・商税・市易などにつき隔週に訳註書作成の研究会を開催して総合的研究を推進した。
- b) 昨年度につづき『宋会要輯稿』食貨の部の語彙索引作業は、「地名編」(カード30,400枚収録)を刊行した。さらに「一般編」カード約78,000枚の入力を終了し原典照合など校正中である。
- c) 『朝野類要』の書誌的研究を実施した。

③「中国古代地域史研究 — 『水経注』の分析から—」(統括・宇都木章)

『水経注』(原典6世紀、中国最古の地理書)とその諸注を考古学上の諸発掘成果およびランドサット衛星地図などと合わせて分析することによって、中国古代の地域社会の構造を再検討する。

[研究実施概要]

- a) 陳橋驛復校『水経注疏』(江蘇古籍出版社刊)をテキストとして、隔週の研究会において、その巻17「渭水」(甘肅省に発し、陝西省咸陽の南、西安(長安)の北を経て黄河に注ぐ)の部分、旧ソ連製('78年、1/100,000)の詳細なランドサット衛星地図と重ね合わせ、さらに『文物地図集(陝西省)』(地図出版社刊)に示されている諸遺跡とを比較対照しながら諸注及び諸校訂を丁寧に検討し読み進めた。
- b) 20世紀以降の中国における渭水流域の諸遺跡の考古学的調査・発掘の報告書を集め、この地域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせ検討し、渭水流域の古代の自然・社会的実態により具体的に迫るよう努めた。この成果を『渭水流域古代地図』などの形でまとめることを検討中である。
- c) 陝西師範大学の侯甬堅教授による講演会(「『水経注』時代の渭水流域」)を催し、現在の渭水地域の地理的・地形的現況などの意見交換を行った。

④「東アジア都城の考古学的研究」(統括・田村晃一)

中国東北地方の東北隅に、713年大唐帝国の册封を受けて渤海郡王となって以降、渤海は連年のように朝貢し、また留学生を次々と派遣し、唐の文化の摂取に努めた。しかしながら、渤海は自国の歴史を遺していないため、渤海の政治、経済、社会、歴史、文化などは詳細が不明なままになっている。このような事情の時、戦前に東亜考古学会が渤海国の首都の遺跡で上京龍泉址=東京城の発掘調査した遺跡・遺物を整理して渤海文化の実態を研究することを中心とし、あわせて朝鮮三国、日本などとの関連を視野に、東アジアにおける渤海都城の歴史的位置を検討する。

[研究実施概要]

- a) 平成14・15年度基盤研究(C)の「渤海都城の考古学的研究」班の成果を踏まえ、現在、中国で渤海都城の宮殿区の発掘調査と整備事業が急速にすすめられているので、上京龍泉府址=東京城の現地調査の整理作業を継続し、『東アジア都城と渤海』としてその成果をまとめ出版した。
- b) 東京城出土遺物の整理作業は、2003年末までに平箱100箱分を洗浄、注記、写真撮影、台帳登録(瓦類614点、建築装飾材1,038点)などを実施したが、残りの整理を継続するとともに研究成果に収載すべき資料を検討した。

(4) 近代中国研究班

①「1910年代における日本の中国認識」(統括・本庄比佐子)

近代日本の政府及び民間機関が作成した中国実態調査資料の検討を通して、日本の同時代中国認識がいかなるものであったかを明らかにすることを基本に、本研究では、比較的研究の手薄な1910年代から20年代初めの時期の山東地方を取り上げる。

[研究実施概要]

- a) 構成メンバー各々がテーマを設定して、個々の研究を進め、その成果をもちよって研究会において意見交換を継続実施している。
- b) 本年度は、山東省社会科学院・青島市社会科学院との研究交流が実現し、研究内容について相互理解を進めることができたことは大きな成果であった。
- c) 昨年度に引きつづき関係資料の調査・収集につとめ、青島守備軍民政部鉄道部発行の『調査資料』シリーズのほか、『山東鉄道調査報告』、『青島実業協会月報』など多くの貴重資料の調査・研究を継続中である。また、その成果の公刊を期して『日本の青島占領と山東の社会経済：1914-22年』の編集をすすめた。

(5) 東北アジア研究班

① 「日本所在近世朝鮮文献資料研究」(統括・吉田光男)

京都大学附属図書館河合文庫、東京大学総合図書館阿川文庫、天理図書館今西文庫をはじめとして、日本各所に所蔵されている近世朝鮮文献資料の歴史学的文献学的研究を行う。18～19世紀の商人関係文書群など、朝鮮半島では類例が発見されていない資料も多く、その全体像を把握する必要がある。本研究では、文献資料の調査と分析を行い、4ヶ年計画でその成果を刊行する。

[研究実施概要]

- a) 朝鮮近世史研究の基礎的基盤を構築するために、日本散在の近世朝鮮文献資料の調査と収集とにつとめ、文献資料のリスト作成、語彙データの入力などを行った。
- b) 4ヶ年間のプロジェクト研究成果の公表を期して、新たに3名の参画を得て検討を重ねた。

② 「清朝満洲語檔案資料の総合的研究」(統括・松村潤)

近年、中国清朝満洲語檔案資料の重要性が注目されてきているが、清朝の基盤組織である八旗のひとつ鑲紅旗満洲の衙門(事務所)の文書群である、東洋文庫所蔵の「鑲紅旗檔満洲都統衙門檔案」の研究を継続する。同檔案には、衙門が設けられた雍正元年(1723)から民国十一年(1922)にいたる、約2,240件の文書が残されている。その文書群の「概要」については、すでにToyo Bunko Research Library No.1(2001年刊)に紹介したが、檔案のもつ歴史的意味、個別檔案の内容等について「研究編」を編み英文での刊行を期す。

[研究実施概要]

- a) 東洋文庫所蔵鑲紅旗檔満洲語檔案の「研究編」刊行の作業をすすめた。
- b) 「清入関前内国史院檔満文檔案」(北京の中国第一歴史檔案館所蔵)の『内国史院檔、天聰七年』(ローマ字転写・和訳・原文写真収載)の出版につづき、「天聰五年(1631)檔」および「天聰八年(1634)檔」について隔週の講読研究会を継続した。

(6) 日本研究班

① 「岩崎文庫貴重書の書誌的研究」(統括・佐竹昭広)

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分になされていない。平成16年度以降は、江戸期の近世写本・刊本、特に歌書関連の貴重書について組織的、総合的に行い、研究の基盤を整備するとともに、これを広く社会に公表し、研究の進展に資することを期す。

[研究実施概要]

- a) 岩崎文庫貴重書書誌プロジェクトは、昨年度までに室町時代以前の成立の古写本・古刊本について、図版を掲載してⅠ～Ⅳを公刊した。本年度からは、引き続き江戸時代の近世写本・刊本を調査し、研究会を催して全体像の把握につとめた。
- b) 平成17年度に『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅴ』を刊行するために、室町期以前の歌書99件の書誌調査・解題執筆に着手した。

<内陸アジア研究部門>

(7) 中央アジア研究班

① 「St. ペテルブルグ文書研究」(統括・梅村坦)

東洋文庫所蔵のマイクロフィルム(ロシア科学アカデミーSt. ペテルブルグ東洋学研究所所蔵文書)のうち、5-6世紀から15世紀頃に活躍したトルコ系・イラン系民族のウイグル語・ソグド語・コータン語・マニ文字文献(約14,000駒)およびモンゴル語文献(約12,000駒)を整理分類し、まず、その総合解題カタログを作成する。それと並行して文献学的・歴史学的・言語学的研究をすすめ、オアシス社会と遊牧社会との関連を含めて、中央アジア諸民族の残した文書により、その当時の歴史文化的背景を明らかにする。

[研究実施概要]

- a) 各言語の専門家による共同文書研究資料として使用するため、断片の文書を含めて、その複製を作成し分類整理をすすめた。
- b) 堀伸一郎氏(国際仏教大学院大学助教授)をペテルブルグに派遣し、サンスクリット文献の実物確認調査を行った。
- c) ウイグル文仮目録に「天地八陽神呪経」と同定された文書について、小田寿典氏(豊橋創造大学名誉教授)の協力を得て検討を重ねた。

② 「近現代中央アジアにおける民族の創成」(統括・小松久男)

1991年ソ連解体と中央アジア5ヶ国の独立以来、現今のアフガニスタン情勢まで連動して、中央アジア諸国ではあらたな「民族意識」がさまざまな形で姿を表し、周辺地域(たとえば新疆ウイグル自治区)にも影響している。この現状を近年における東洋文庫の収集資料を活用して主に歴史学の方法によって検証し、「国民国家」の枠組みを問いなおしつつ、「民族」創成の多様な論理と過程を明らかにする。この地域に「民族意識」の原形が生まれたのは、19世紀末のことであり、これを創出したムスリム知識人たちはおもに新聞・雑誌などの新しいメディアを活用しながら民族的なアイデンティティの形成にあたった。したがって、19世紀末から20世紀初頭に刊行された新聞・雑誌は、重要な史料であり、これをもとに実証的な研究を進める。

[研究実施概要]

- a) 本年度は、3回の研究セミナーの開催を中心に活動を実施した。
- b) 平成17年度に刊行する、近現代中央アジアに関する研究情報の蓄積と世界における研究動向の把握を目的として、*Research Trends in Modern Central Eurasian Studies* (Part2)の編集作業を継続した。そのためにStéphane A. Dudoignon(フランスCNRS研究員)を招聘し共同研究を行った。
- c) 中央アジア東部の多民族が集住する地域として知られているフェルガナ地方の貴重な統計資料を基に、1917年におけるエスニック・グループの分布状態と人口規模に関するデータベースを作成した。

③ 「敦煌・トルファン出土漢文文書の文献学的研究」(統括・土肥義和)

これまで、中国の中央で編纂された漢語史料を中心に進められてきた中国の内地及び内陸アジア諸地域の諸民族の歴史を現地で作成された生の漢文文書进行分析研究することによ

て、諸民族の歴史の実態を明かにすることにある。このために、本研究は、3世紀から13世紀に至る時代に作成された漢文文書を記述内容によって分類し、それぞれの文書がどのような特質をもっているかを、書誌学的、あるいは古文書学的に研究することによって、諸種文書の外形的な特徴、即ち、様式を究明する。

[研究実施概要]

- a) ロシアのサンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵の内陸アジア出土文書マイクロフィルム資料に含まれる漢文文献（106リール）の仮目録作成につとめた。
- b) 「内陸アジア出土古文献研究会」の開催を継続して、標記課題のもと個別研究報告を重ねた。

(8) チベット研究班

①「チベット蔵外文献の書誌的研究」(統括・川崎信定)

これまで永年にわたってチベット人研究協力者の協力のもとに「チベット語文語辞典の編纂」および「チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究」の研究業績の蓄積の上に立って、さらに一層の研究の充実を図るべく、「チベット蔵外文献の調査研究」を実施する。

[研究実施概要]

- a) 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録の編纂カードを点検して、目録データベースの作成を継続した。
- b) 東洋文庫所蔵チベット蔵外文献中の河口慧海師将来文献(蔵外No. 399、408、409、411、423、428、431-2、443-4、454、456)および注釈のウメ文字体写本の校訂と語彙収集およびデータベース化を遂行した。
- c) チベットの伝統的仏教学の基礎研究書として、従来より研究を進めてきたトゥカン『宗義書』(既刊6巻)の現存諸版の全体的再点検を行い、テキスト校訂と語彙収集およびデータベース化を進め、また、「トゥカン一切宗義〈インド仏教編〉」の編集につとめた。
- d) 『チベット語文語辞典』編纂の基礎資料として、チベット仏教の基本的文献についてのデータベース作成の作業を継続した。

<インド・東南アジア研究部門>

(9) インド研究班

①「南アジアにおける支配権力の政治と文化」(統括・小名康之)

南アジア史における支配権力は、概略、古代のヒンドゥー政権、中世のムスリム政権、近代の植民地政権、現代の民主政権へと展開した。この中、わが国において最も遅れているムスリム政権のムガル時代を中心に、南アジア史関係のペルシア語、ウルドゥー語史料の蒐集につとめ、インド=ムスリム政権の権力構造とその支配下における社会、経済、文化の実態を解明する。

[研究実施概要]

- a) 個別研究を進める過程で、ムガル帝国時代のムスリム関係史料、ウルドゥー語史料、ヒンディ文学関係史料の調査をすすめ、蒐集計画を検討して、データ入力に備えた。
- b) TBRL No.6 *The Structure of Ancient Indian Society* (山崎元一著) を刊行した。

(10) 東南アジア研究班

①「東南アジア諸国の伝統と近代化をめぐる諸問題」(統括・石井米雄)

東南アジアの港市には、東西世界の商人が逗留するとともに、中国やインド、西アジアか

らの移住者も流入した。そこで、東南アジアの前近代から近代にかけてこうした移住者達が、出身地といかなるネットワークを形成し、また近代東南アジア社会の構築にいかに関わったかを、港市を拠点に考察する。

[研究実施概要]

- a) 東南アジア関係マイクロフィルム資料の分類整理とデータ入力を進めた。
- b) 14~19世紀の東南アジアの王統記の他者表象をめぐる記述の一覧表作成につとめた。
- c) ラッフルズの書記として活躍したアブドゥッラーの自伝『アブドゥッラー物語』における他者表象の一覧表を作成した。
- d) イスラーム化や西方世界との商業活動のネットワークづくりに重要な役割を担ったアラブ人移住者の歴史や現状を考察するために、研究協力者2名を派遣してアラブ人の居住区が比較的良好に残っているジャワのスラバヤ、グレシクとジャカルタを調査した。あわせて華人系やインド系移住者との比較を検討した。

<西アジア研究部門>

(11) 西アジア研究班

① 「イスラーム世界における契約文書の研究」(統括・三浦徹)

私人間の契約(売買契約など)にとどまらず、広く君臣契約や行政契約(徴税請負など)を含め、現存する文書や史料をもとに、イスラーム世界における契約を保証するシステムと契約によって結ばれる社会関係の全体像を検討する。

[研究実施概要]

- a) 平成17年度出版予定の *Muqata Defteri (Tax-farm Register) of Damascus Province in the Seventeenth Century* (「17世紀シリアのムカーター台帳の校訂と研究」)の校訂作業のため、研究協力者をダマスカス歴史文書館等に派遣し原文書との照合・校正作業をするなど、編集・出版作業を進めた。また、関係資料の調査と収集につとめた。
- b) ムカーター台帳オスマン語テキスト(アラビア文字)全頁の校正を行った。
- c) 他機関のプロジェクト「イスラーム写本・文書の総合的研究」などと共同研究会を催し、イスラーム法廷文書に関する研究者のネットワークを構築・更新した。

C. 各種研究会・講演会の開催

数量\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
研究会回数	12	12	18	21	21	33
参加人数	152	258	177	207	109	344

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
20	18	19	9	27	22	232回
313	307	177	125	146	236	2,551人

II. 資料収集・整理

超域プロジェクト研究・アジア諸地域歴史・文化の基礎研究ともに、図書委員会の協議によりアジアの現状および歴史に関する一次資料(写本、文書史料、刊本等)、専門研究書、定期刊行物を収集し、東洋文庫所蔵資料の補充に努める。また、東洋文庫所蔵図書・資料は、部数約360,000件、冊数約880,000冊に及んでいるが、現在、書誌データのオンライン検索による約150,000件を構築し公開している。さらに重要文献の画像デジタル化による公開にも力を入れている。

A. 資料購入

区 分	和漢書	洋 書
超域・現代中国研究	222冊	103冊
超域・現代イスラーム研究	0	1,427冊
東アジア研究	360冊	34冊
内陸アジア研究	8冊	1,424冊
インド・東南アジア研究	0	397冊
西アジア研究	0	556冊
共通（継続・大型資料）	944冊	313冊
合 計	1,534冊	4,254冊

B. 資料交換

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	国 内	国 外	計
単 行 本	785冊	633冊	1,418冊	2,071冊	1,394冊	3,465冊
定期刊行物	3,149冊	955冊	4,104冊	3,206冊	1,895冊	5,101冊
計	3,934冊	1,588冊	5,522冊	5,277冊	3,289冊	8,566冊

C. 図書・資料データ入力数

平成16年4月1日～平成17年3月31日までの期間に、新収及び蔵書遡及のDB入力数は、下記の通りである。

洋 書	1,809	トルコ語図書	247
和漢書	884	近代中国関係図書	689
キリル語図書	961	南アジア諸語図書	924
モンゴル語図書	55	雑誌(和漢洋ほか)	8,582
ペルシア語図書	683		
アラビア語図書	720	合計	15,554件

D. 資料保存整理

(1) 補修再製本・製本

①

区 分	単 行 本		簡易製本
	和 装	洋 装	(和・洋装)
数 量	裏打	補修	67冊
	4,336枚 249冊	1,482枚 87冊	

②

区 分	定期刊行物	製帙・保存箱	地図類	その他	整理保全
数 量	964冊	310点	43枚	1,126枚	425点

(2) 撮影・焼付

区 分	撮影齣数	フィルム反転	電子複写枚数	整理作業
数 量	33,332丁	61リール	0	10件

Ⅲ. 研究資料出版

新しく発表される、或いは「調査研究」の成果として東洋学に関する重要な研究業績を出版し国内国外に紹介する。また、アジア研究の国際化をさらに促進すべく、東洋文庫を中心とする日本のアジア研究の優れた研究成果を、主に英文等の欧文を中心に『東洋文庫欧文論叢』として刊行する。なお、平成17年度から *Asian Research Trends -New Series-* を定期出版すべく編集中である

A. 定期出版物刊行

- ・『東洋文庫和文紀要』（東洋学報） 第86巻第1～4号 A5判 4冊 （刊行済）
- ・『東洋文庫欧文紀要』（*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*）
No. 62 B5判 1冊 （刊行済）
- ・『近代中国研究彙報』第27号 A5判 1冊 （刊行済）
- ・『東洋文庫書報』第36号 A5判 1冊 （刊行済）
- ・『超域アジア研究報告』第2号 B5判 1冊 （刊行済）

B. 論叢等出版

- ・ *Modern Japan-China Relations*
(Toyo Bunko Research Library 〈TBRL〉 東洋文庫欧文論叢 No.5)
A5判 1冊 （刊行済）
- ・ *The Structure of Ancient Indian Society* (TBRL No.6) A5判 1冊 （刊行済）
- ・『東アジアの都城と渤海』 B5判 1冊 （刊行済）
- ・『東洋文庫イラン・イスラーム革命文献解説目録』 A5判 1冊 （刊行済）
- ・『東洋文庫キャスラヴィー関係加賀谷コレクション解説目録』 A5判 1冊 （刊行済）

Ⅳ. 普及活動

A. 研究情報普及

(1) 東洋学講座

(春 期) 共通テーマ:アジア諸地域の文字史料

[東洋文庫創立80周年記念講演会 (5)]

第479回 平成16年5月11日 (火)

「東南アジアの文字史料—タイ語文献を中心に—」

東洋文庫研究員

大学共同利用機関法人 石井米雄氏

人間文化研究機構長

第480回 平成16年5月18日 (火)
「満洲語史料の世界 ―東洋文庫の満洲語史料コレクション―」
東洋文庫研究員
日本大学教授 加藤直人氏

第481回 平成16年5月25日 (火)
「朝鮮の漢文史料と東洋文庫」
東洋文庫研究員
東京大学教授 吉田光男氏

(秋 期) 共通テーマ:世界のアジア学と東洋文庫
[東洋文庫創立80周年記念講演会 (6)]

第482回 平成16年10月19日 (火)
「岩崎文庫蔵絵巻物・嵯峨本―源氏物語・伊勢物語を中心に―」
成城大学教授 上野英二氏

第483回 平成16年10月26日 (火)
「モリソン文庫―その至宝 地図―」
東洋文庫研究員
大阪大学名誉教授 海野一隆氏

第484回 平成16年11月2日 (火)
「河口慧海とチベット文献」
筑波大学講師 吉水千鶴子氏

第485回 平成16年11月9日 (火)
「近代中国研究と東洋文庫」
東洋文庫研究員 本庄比佐子氏

第486回 平成16年11月16日 (火)
「世界のアジア学と東洋文庫」
「東洋文庫 漢籍との出会い」
東洋文庫研究員
京都大学名誉教授 竺沙雅章氏
「新しいアジア学をめざして」
東洋文庫研究員
早稲田大学教授 佐藤次高氏

(2) 特別講演会

第1回 平成15年7月12日 (月)
「水経注時代的渭河流域」
陝西師範大学教授 侯甬堅氏

第2回 平成16年10月22日 (金)
「Zheng-Bai Canal, Shaanxi, and its changes overtime」
Prof., College de France Pierre-Etienne Will 氏

第3回 平成16年12月16日 (木)
「The Chaghatay Turkic Language and Its Role in the Cultural History of Eurasia」
Research Fellow, National Academy of Sciences of
the Republic of Kazakhstan Timur Beisembiev 氏

第4回 平成16年12月16日（木）

「Uyghurs as a Central Asian Commonality: Soviet Historiography on Uyghurs」
Research Fellow, National Academy of Sciences of
the Republic of Kazakhstan Ablet kamalov 氏

第5回 平成17年1月14日（金）

「Some Historical Documents related to the Slavery in khiva Khanate」
Research Fellow, The Abu Raihan Biruni Institute of Oriental Studies,
The Academy of Science of the Republic of Uzbekistan Nuryagdi Toshov 氏

第6回 平成17年1月14日（金）

「A Special Kind of Decree given Khan's Seal」
Research Fellow, The Abu Raihan Biruni Institute of Oriental Studies,
The Academy of Science of the Republic of Uzbekistan Sanjar Gulomov 氏

第7回 平成17年3月25日（金）

「Turkish Islamic activities in Central Asia」
Institute Francais d'Etudes Anatoliennes Bayram Balci 氏

(3) 研究会（東洋文庫談話会）

- ・日時：平成16年10月1日（金）
「漢代官吏任用における財産資格の再検討」
日本学術振興会特別研究員PD 高村武幸氏
- ・日時：平成16年12月10日（金）
「日中戦争と中国の少数民族問題—回民の事例から—」
日本学術振興会特別研究員PD 安藤潤一郎氏
- ・日時：平成17年3月15日（火）
「13～14世紀の西方イスラーム世界における予言者聖誕祭
—宮廷行事としての側面を中心に—」
日本学術振興会特別研究員PD 佐藤健太郎氏

(4) 参考情報提供

『東洋文庫年報』平成15年度版 A5判 1冊（刊行済）

B. データベース公開

平成16年4月1日～平成17年3月31日までの期間に、東洋文庫の図書・資料のデータに対するオンライン検索アクセス件数は、概略、以下の通りです。

区分\2004年4月~2005年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
漢籍資料(含・中文逐次物)	961	954	1,188	1,012	887	869	1,080	945	1,000	845	885	375
欧文図書・目録(含・近中)	1,156	1,116	1,139	1,287	1,035	1,156	1,242	999	1,154	996	1,340	763
中・日・欧・露文新収図書目録	237	191	167	142	129	140	182	144	172	148	191	78
中文図書(近中)	331	289	348	343	465	389	400	418	409	319	127	301
日本文書(近中)	723	680	629	473	506	651	542	525	571	446	380	401
日文図書(含・岩崎、近代、逐次)	563	454	586	512	514	554	648	577	578	645	781	636
アラビア語図書	531	262	446	438	417	446	463	547	573	465	494	334
トルコ語図書(含・オスマン)	295	259	291	265	239	252	329	210	272	280	267	143
ペルシア語図書	524	267	418	388	364	437	488	513	613	485	524	308
チベット語文献(河口・蔵外)	670	496	568	469	514	375	466	394	498	437	434	249
中央アジア研究文献目録	415	403	402	426	395	530	552	435	622	815	508	297
中東イスラム研究文献目録	362	441	421	370	293	315	356	709	429	787	650	495
その他(別置ウイグル、ビルマ語など)	748	674	735	1,038	621	723	985	663	998	1,053	1,183	931
合計	7,516	6,485	7,338	7,163	6,379	6,837	7,733	7,079	7,866	7,721	7,764	5,311

なお、電算システム設備・管理技術に関する調査のために台北中央研究院歴史言語研究所などを歴訪し、また、重要文献デジタル化問題の協議のため上海図書館員2名を招聘して意見交換を重ね学术交流促進を諮った。

V. 学術情報提供

東洋文庫は、日本における東洋学の共同利用の研究機関であると同時に、国内外の研究者並びに研究機関との連絡に当たって今日に至っている。従って、学術情報の提供に関する下記の諸事業は東洋文庫として最も力を入れているところである。

(1) 図書・資料の閲覧(協力)サービス

数量 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
閲覧者人数	194	196	266	261	313	230
閲覧図書数	2,591	2,141	3,707	3,806	5,074	2,937
レファレンス数	52	53	72	70	84	62

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
225	226	231	177	202	220	2,741人
2,496	2,492	3,219	2,629	2,821	2,956	36,869冊
61	61	62	48	55	59	739件

(2) 研究資料複写サービス

A) マイクロフィルム・紙焼写真

区 分	申込件数
数 量	288件

B) 電子複写

区 分	申込件数	焼付枚数
数 量	754件	36,469枚

(3) 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報 第85巻4号、 第86巻1, 2, 3号	各370部
岩崎文庫貴重書書誌解題IV	350部
宋史食貨志訳註 (五)	150部
<i>Research Trends in Modern Central Eurasian Studies</i> (TBRL 3)	80部
<i>Political History of Modern China</i> (TBRL 4)	80部
日本所在朝鮮戸籍関係資料解題	150部
近代中国研究彙報 第26号	50部
東洋文庫書報 第35号等2件	各50部
東洋文庫イラン・イスラーム革命文献解説目録	30部
東洋文庫年報 平成15年度版	10部

(4) 研究情報提供サービス

『宋会要輯稿食貨語彙索引 地名篇』 B5判 1冊 (刊行済)

(5) 広報普及

東洋文庫ホームページ(和文・英文)を随時更新した。

また、東洋文庫図書資料データベース検索ページ(書誌データ)アクセス件数を含めて、平成16年4月～平成17年3月までのHP全体のアクセス件数は、以下の通りである。

数量\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
アクセス数	21,292	18,148	21,076	20,549	17,852	20,725

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
23,389	19,635	20,642	19,317	21,124	13,193	236,942人

(6) 研究者の交流および便宜供与のサービス

A) 長期受入

1) 国内研究者の受入

2) 平成16年度日本学術振興会特別研究員PDの受入

佐藤 健太郎 (東京大学大学院PD)

「11～13世紀アンダルス(イスラーム・スペイン)における暦と祭」

(平成14年度採用、同15・16年度3ヶ年間)

安藤 潤一郎 (東京大学大学院PD)

「近代中国におけるイスラム系少数民族の研究 ―主として国際関係の視座から」

(平成14年度採用、同15・16年度3ヶ年間)

内田 直文 (九州大学大学院PD)

「清代中国の文書行政及び皇帝側近集団から見た清朝国家の支配構造の分析」

(平成15年度採用、同16・17年度3ヶ年間)

高村 武幸 (明治大学大学院PD)

「秦漢帝国支配下の地域社会 ―紀元前3世紀末～紀元3世紀初頭の社会生活史の視点から」

(平成15年度採用、同16・17年度3ヶ年間)

前田 弘毅 (東京大学大学院PD)

「イスラーム世界における奴隷エリートの研究 ―マイノリティー・ネットワークの視座から」

(平成15年度採用、同16・17年度3ヶ年間) (平成16年7月31日就職のため辞退)

石川 博樹 (東京大学大学院PD)

「16、17世紀エチオピア北部社会の研究：牧畜民の流入とイエズス会布教の影響を中心に」

(平成16年度採用、同17・18年度3ヶ年間)

五十嵐 大介 (中央大学大学院PD)

「マムルーク朝後期エジプト・シリアにおけるイクター制の崩壊過程と社会体制の変容」

(平成16年度採用、1ヶ年間)

3) 外国人研究者の受入

Je@ro¥me BOURGON (フランス国立科学研究センター [CNRS] 研究員)

「清朝の官箴類を中心とした中国法制史関係の資料調査と研究」

(平成16年6月8日～同17年3月31日・フランス政府資金)

Luca GABBIANI (フランス社会科学高等研究院研究所員)

「清朝の戸部機構および官箴類を中心とした中国法制史関係の史料調査と研究」

(平成16年7月1日～同17年3月31日・フランス政府資金)

Christophe MARQUET (フランス国立東洋言語文化研究所教授)

「江戸中期・後期の絵入り本と画譜」

(平成16年9月1日～同17年8月31日・フランス国立極東学院経費 [東京支部代表])

Pierre-Etienne WILL (コレージュ・ド・フランス近代中国史講座教授)

「中国の官箴・公牘・政書類を中心とする文献の調査と研究」

(平成16年10月11日～同10月25日・フランス政府資金)

Claus M. FUSCHER (ドイツ連邦ゲッチンゲン大学教授)

「東洋文庫(岩崎コレクション)所蔵日本近世演劇史資料の調査研究」

(平成17年2月8日～同18年2月7日・私費)

B) 外国人研究者への便宜供与

Afghanistan

M. Anwar Zulmaiyyar Director of National Archive of Afghanistan (以下、2名)

China (People's Republic)

宋 士 昌 山東省社会科学院院長 (以下、28名)

China (Taiwan)

陳 永 發 台湾中央研究院近代史研究所所長・研究員 (以下、7名)

Iran

Mohsen Kadivar Prof., Tarbiyat Modarres University (以下、2名)

Germany

Claus M. Fischer Prof., University Goettingen Ostasiatisches Seminar Japanologie
(以下、2名)

France

Jerome Bourgon Charge de recherche, Centre National de la Recherche
Scientifique(CNRS), Institut d'Asie Orientale (以下、7名)

Holland

Leonard Blusee Prof., Universiteit Leiden

Kazakhstan

Ablet kamalov Research Fellow, National Academy of Sciences of
the Republic of kazakhstan (以下、2名)

Korea

崔 鐘 男 中央僧伽大学校教授 (以下、5名)

Morocco

Abderrahim Benhadda Prof., UFR. Me@diterrane@e et Monde Musulman
De@pt. d'Historie-Faculte@ des Letters

Nepal

Pradeep Bhatarai Library Assistant Cataloguer, Nepal National Library

Singapore

Lee cheuk Yin Associate Prof., & Head, Department of Chinese Studies,
National University of Singapore

U.K.

Tim Wiyur (Prof.,)University of Sheffield (以下、2名)

U.S.A.

Choory Nam Yoon Librarian, Havard-Yenching Library (以下、3名)

Uzbekistan

Sanjar Gulonon Research Fellow, The Abu Raihan Biruni Institute of Oriental Studies,
The Academy of Science of the Republic of Uzbekistan (以下、2名)

Vietnam

吳 明 順 漢喃研究所研究員 (以下、5名)

平成16年度財団法人東洋文庫特別事業報告書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成17年3月31日現在までに行なわれた財団法人東洋文庫特別事業の報告は下記の通りです。

事業内容

I. 特別調査研究並びに研究成果の編集等

(1) 日本学術振興会科学研究費補助金並びにその他助成金による事業

A) 平成16年度科学研究費補助金による事業

1) 研究成果公開促進費（データベース等）の対象事業

[名称] 「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」

[東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信]

[分野] 「東洋学全般」

[目的・内容]：

本プロジェクトは、東洋学に関する世界5大機関の一つに数えられる研究所・図書館である(財)東洋文庫が80年にわたり収蔵してきた言語種類50数種、部数370,000件、冊数900,000冊におよぶ大量の多言語資料を、書誌データのみならず、図像・地図などの画像資料をふくむマルチメディア・データのレベルまで拡大してデータベース化し、これをインターネットを通じて、内外の利用者が自由に検索できるようにすることを目指している。書誌データは1994年に入力を開始して以来、約10年を経て、200,000件に到達し、目途がついてきた状態にあり、これを踏まえて、今後は画像処理の手法によるマルチメディア・データの構築にとりくみたい。幸い、この数年の間にチベット語を中心に多言語処理の技術開発を試行し、その成果として若干のテキスト・データのデータベースの作成に成功している。また、従来、貴重資料はマイクロフィルムによる複製保存を行ってきたため、現在まで約6,000件、1,000,000コマを越える貴重書フィルム（35mm）を所蔵している。これを画像にとりこみマルチメディア・データベースを構築することで、本計画の基本部分は構成できる見通しである。もちろん、そのためには、サーバの容量の増大、スキャナの性能の向上、精密画像の処理能力の向上など、克服すべき課題は少なくないが、国会図書館による電子図書館の発足、国立情報学研究所による文化遺産アーカイブの構築計画など、マルチメディア・データでの資料提供、およびそのオンライン検索は、学術情報提供の主流になりつつある。大量の貴重資料を所蔵する本文庫としても、国会図書館や国立情報学研究所との密接な連絡のもとで、多言語情報の分野でマルチメディア・データのオンライン検索の便宜を内外研究者に提供したい。

[事業実施概要]：

(1) 書誌データ・ベースの補充

従来、①逐次刊行物、②古典籍（漢籍・日本古典）、③洋書（英独仏）、④東アジア諸語（日本語、韓国朝鮮語、現代中国語）、⑤アジア諸語（アラビア語、ペルシア語、現代トルコ語、オスマントルコ語、キルギス語、ウイグル語、カザフ語、スイディ語、チベット語、モンゴル語、ビルマ語など）の5類に分けて、書誌データの入力を行ってきたが、平成16年度末現在、所有データ総数は約400,000件、うち入力済み数は380,000件、データ総数の95%に達する。またWebサイトに公開したデータ数は41種、341,948件、入力済み数の89.7%に達す

る。これらのデータベースについてのアクセス件数は、平成15年度当初（15年4月）、23種、3,796件であったが、平成16年度末（17年2月）には41種、9,181件2.4倍に達している。

(2) 貴重書・稀覯本のマルチメディア・データの作成

貴重書、稀覯本で、マイクロフィルムで保存してあるものが6,000件、1,000,000ページ(コマ)がある。その中から、特に貴重なもの100,000ページを精選し、毎年20,000ページをWebサイトに挙げて、5年間で完成させるため作業中である。

2) 基盤研究（B）の対象事業

[課題] 「宋代の経済政策及び関連する諸政策の総合的研究」 [研究代表者：斯波義信]
(平成14年度採用、3ヶ年間・最終年度)

[目的]；

本研究は、経済政策及びその立案の背後にある諸々の経済制度、官僚支配等に関する用語の調査・研究を通して、宋代経済政策の全体像を明らかにすることを目的とする。

具体的には、一つは従来『宋史食貨志』訳註作業を継続させ、残る部分即ち専売・商業税・金融政策・貿易管理等の訳註を完成させること、一つはやはり従来推進してきた『宋会要輯稿』食貨の語彙調査を、地名及び一般語彙に及ぼすこと、一つは『朝野類要』訳註作業を推進させること、以上の3つである。3つの作業は語彙調査上、相互に関連しており、同時に推し進めなければならない。本年度は、関連する語彙の調査と摘録入力とに重点を置き、一部の訳註稿についてはその完成出版を目指すこととしたい。

[研究実施概要]；

- (1) 平成15年度に『宋史食貨志訳註（五）』を出版し、宋代の茶法及び塩の専売制度について研究成果を公刊したので、本年度は、『宋史食貨志訳註（六）』の出版を目指し、宋代商業税、流通政策、貿易管理等についての訳註稿の作成を準備した。
- (2) 『宋会要輯稿』食貨の部の語彙索引（地名）を完成させ、公刊した。
- (3) 同じく語彙索引（一般）のカード入力を継続した。
- (4) 『朝野類要』訳註稿作業に当り、北京大学・上海図書館・南京図書館・中国国家図書館所蔵の版本照会・校訂のために現地調査を実施し、訳註稿の作成を継続した。
- (5) 『宋史食貨志訳註（六）』、『宋会要輯稿食貨語彙索引』（地名・一般）、『朝野類要訳註』の完成に向けて隔週の研究会を開催し、最終年度にあたりその成果を報告書にまとめた。

3) 基盤研究（B）の対象事業

[課題] 「第一次大戦期日本の山東経営をめぐる総合的研究」 [研究代表者：本庄比佐子]
(平成15年度採択、4ヶ年間・2年度目)

[目的]；

第一次世界大戦期に日本はドイツの青島要塞を攻略し、山東半島を拠点として中国大陸に対する利権拡張政策を積極的に展開した。そしてこの時期以降、日本は青島、山東半島を拠点に、それまで主に東北地域と台湾に限られていた利権を、中国の関内地域に拡大していく。本研究では、この時期、1910年代後半から1920年代初めにかけて、青島守備軍、満鉄、農商務省などの国家機構を動員して進められた山東地域など中国の実態調査の全貌を明らかにするとともに、それらの調査資料を参照しつつ、青島・山東地域を中心に、当時の中国の政治・経済・社会に関する総合的な考察を試みる。

[研究実施概要]；

- (1) 前年度に引き続き史資料の調査・収集に努めた。
 - ① 東省図書館及び大連市図書館を訪問し、メンバー合同で両図書館の所蔵する日本語文献の調査をおこない、大きな収穫を得た。とりわけ、大連

市図書館では、『青島守備軍民政部部法』『大陸工作』、青島民政署が青島における新市街建設に作成した土地買収図など、国内では見出し得ていない史資料を見ることができた。

- ② メンバー個々に、前年度に続く防衛庁防衛研究所図書館・外交史料館での調査のほか、滋賀大学経済研究所・大分大学経済研究所・小樽商科大学あどの図書館で調査をおこなった。
- ③ 前年度に作成した『青島実業協会月報』の記事目録について、記事本体との照合をおこなって完成させ、これを『近代中国研究彙報』第27号(2005年3月)に発表した。

(2) 研究活動

- ① 青島市社会科学院及び山東省社会科学院を訪問し、両所で学術交流をおこなった。日本側からは、久保亨「近代山東経済の発展におけるドイツと日本の影響」及び弁納才一「日本の青島占領時期の山東物産調査」の報告をおこなうと同時に、青島では、任銀睦「近代青島の都市発展と内陸農村の社会経済」など、済南では、庄維民「誰が貿易の主導権をとるか：山東の日本商人の海上貿易と在日華僑の商業経営」など、の報告を得て、貴重な意見交換をすることができた。
- ② 本プロジェクトの定例の研究会では、メンバーの中間研究報告をおこなうほか、斉藤聖二「日独青島戦争」、浅田進史「膠洲湾租借地における植民地政策と植民地社会の形成(1897-1914)」、庄司博史「民国期山東省鮮島の綿織物業と地域経済」の、ゲストの報告を聴き、研究を深める上で有用な知見を得ることができた。

B) その他の平成16年度研究助成金による事業

1) 三菱財団人文科学研究助成の対象事業

① [課題]「中国古代地域史研究 - 『水経注』の分析から」

[代表研究者：堀 敏一] (平成14年10月～17年9月・3ヶ年間)

[目的]：

本研究は、中国中原地域とその周辺の各地域を対象とする地域史を中心に、近年の考古学や科学の発展によって再検証が求められている典籍史料の再構築を目指すという明確な目標を有するとともに、『水経注』という限定した文献的な整理とその考察とによって、古代地域史の水準を高め、中国古代史の新解釈を試みようとするものである。

『水経注』は黄河と長江及びその支流全域にわたり逐条、各地の詳細な調査と記録を行ったものであり、我国でも『水経注』の部分的注解や翻訳は行われていたが、なお注文まで含めた徹底的な解釈、翻訳はなされていない状況にある。

本研究プロジェクトでは、数年来継続してきた『水経注』の総合的注釈作業を基礎とし、清代考証学の成果である『水経注疏』(楊守敬・熊会貞疏・段熙仲點校)をテキストとして使用して、原典に関する精査、分析整理を行っている。若手研究者の補助を得つつ、考古学資料などをも加味することによって新解釈を成し遂げ、以て『水経注疏・新訂』の刊行を目指したい。

[研究実施概要]：

現在、渭水水系に関する部分、『水経注疏』巻17渭水(上)を検証している。渭水水系は周、秦、漢、前秦、北周、隋、唐といった王朝の都城が置かれた地であり、中国古代史の核となる地域である。本研究では、まず『水経注図』(楊守敬篇)を基礎資料として参照しつつ『水経注疏』の輪読を進めている(隔週木曜日開催)が、新しい中国の地図はもちろんのこと、

ロシアで作成された詳細なランドサット衛星地図やアメリカの航空地図を活用することによって、より丁寧に当該市域の地形や地勢を検討することが可能になった。特に、これまでに読み進めてきた甘粛省の山岳地域では、河川流路の変移があまり見られず、現地形をもって考察の対象とすることが可能である。よって、ロシアの衛星地図には微細な等高線や河川の流行状況などの地理情報が克明に示されており、衛星地図の活用によって従来解読が困難とされていた部分も詳細な解釈が可能になった。

なお、今年度、財団の研究助成事業のもとで行なった主な成果は以下の通りである。

- (1) 陳橋駅復校『水経注』をテキストとし、その巻17・18“渭水”の部分、諸注および諸校訂を丁寧に検討しながら陝西省の宝鶏市付近まで読み進めた。原文の訓読と諸注の再検討を合わせて、訳注書を作るべく準備を進めた。
- (2) 20世紀以降の中国における渭水上流域の諸遺跡の考古学的調査・発掘報告書を集め、この地域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせ検討し、渭水上流域に対する注釈書『水経注疏』1（仮題）の整理を行なった。この作業成果は、さらに充実させて新たに「渭水流域古代地図」を作るなどの形でまとめたい。
- (3) 昨年度末、研究分担者を甘粛省、陝西省の渭水上流域の実地調査に派遣し、北京大学教授徐天進氏同行のもと、甘粛・陝西両省の諸考古学団体の協力を得て主に遺跡の調査を行なった。その調査記録の検証の結果、成紀縣故城遺跡と顕親縣故城遺跡の所在を明確にするとともに、清水縣の秦亭では北魏太和年間建立の石碑を新たに発見した。この石碑には『魏書』中に見られない縣の存在が示されており、今後の研究に期すところ大である。また、陝西師範大学を訪問して、同大学における陝西省の歴史地理学上の成果を摂取するとともに、今後の研究協力・学术交流について話し合い、同大学の協力により宝鶏市近郊の実地調査を行い郁夷縣故城遺跡の所在も確認した。
- (4) 2004年7月7日より15日まで、陝西師範大学教授侯甬堅氏を招聘し、講演会・座談会の開催を通じて外部の国内研究者との交流の機会を持つとともに、今後の研究協力体制について意見交換を行なった。
- (5) 現在、研究の対象は陝西省西部地域に入っているが、最近この地域では周の遺跡が発見され、考古学的に注目を集めており、本研究における『水経注』注釈成果は当該地域史の理解に重要な役割を果たすことになると確信する。

平成16年度財団法人東洋文庫特定事業報告書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成17年3月31日までに行なわれた財団法人東洋文庫特定事業の報告は下記の通りです。

事業内容

[事業名] アジア関係資料データベース化プロジェクト [プロジェクト代表：斯波義信]

[期間] 平成13年度～同17年度(5ヶ年計画)。

当初予定された事業は完了したので、新たに東南アジア関係の資料のデータベース化事業を推進する。

[目的] 本プロジェクトは生化学工業株式会社元社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するためであったが、当初予定の事業を終えたので、今後は広くアジア関係資料の公開も含め、データベース化事業を推進することを目的とする。

[事業] アジアを中心とした資料の整理公開のためのデータベース化事業を進めた。